

## スリナム月間情勢報告（2024年2月）

在トリニダード・トバゴ日本国大使館

2月のスリナム内政、経済、外交月間報告は以下の通り。

### 1 内政

●（5日報道）世界の腐敗・汚職削減のための調査や啓発を行う国際NGOトランスペアレンシー・インターナショナルは、世界中の汚職を国別にリスト化した「腐敗認識指数」を発表し、スリナムは昨年引き続きガイアナやコロンビア等と並んで87位に位置づけられた。同NGOは、スリナム政府が汚職問題の抑制や対策に取り組んでいないと警告。

### 2 経済

●（9日報道）ヤゲサー・スリナム石油公社（Staatsolie Maatschappij Suriname N.V.）総裁は、スリナムには7億バレルの可採埋蔵量が存在し、現在国内に日量20万バレルの生産能力を持つ石油生産プラットフォームの建設を計画していると発表。

●（12日報道）ヌーモハメド公共事業相は、Van't Hogerhuysstraat 橋の建設及び同地区開発の資金調達のため、米州開発銀行と800万米ドルの債務返済の繰り延べを行ったと発表。

●（13日IMF発表）国際通貨基金（IMF）は、岡村IMF副専務理事がスリナムを訪問し、サントキ大統領とスリナム経済の機会や課題に関して協議した他、スリナム政府や開発パートナーと同国における公共セクター改革や汚職・腐敗防止の取組などに関して議論した旨を声明にて発表。

●（15日、17日報道）中国は、国家防災調整センター（NCCR）及びスリナム外務・国際商業・国際協力省（BIBIS）に総額13万米ドルを拠出。内3万米ドルはBIBISの建物修繕に、10万米ドルはNCCRの組織力強化に充てられる。

●（21日報道）欧州連合は、スリナム農業市場アクセス・プロジェクト（SAMAP）の一環として、シパリウィニ地方北部における農業開発を目的に、Saamaka Wosu U.A. 協同組合に最新式トラクターと農機具を供与。

●（24日報道）スリナムと米州開発銀行（IDB）は、2023年6月に発足したIDBのアマゾニア・フォーエバー・イニシアチブに基づき、気候変動への適応と緩和に焦点を当てる約500社のバイオエコノミー零細・中小企業を対象に、金融サービスへのアクセス改善に向けた1,200万米ドルの融資契約に

調印。

### 3 外交

- （2日報道）スリナムとクウェートが外交関係を樹立。
- （28日報道）サントキ大統領、アリ・ガイアナ大統領及びルラ・ブラジル大統領は、第46回カリコム首脳会合の一環として三か国間協議を行い、国境地帯のインフラ共同開発・投資、食品輸出、ガイアナ及びスリナムの港の利用、及び石油・ガス分野等に関して協議を実施。